

【学位論文審査の要旨】

1. 審査結果

本論文には以下の3つの学術上の貢献を見出すことができる。第一に、ジョブ・クラフティング研究の原点において提示されていた問題を改めて取り上げ、仕事の経験に対する従業員自身の能動的な働きかけのプロセスにおいてジョブ・クラフティングが生じていることを明らかにしたことである。第二の貢献は、越境経験が喚起する関係的な主体性によって促される協同志向ジョブ・クラフティングを、ジョブ・クラフティングの新たな形態として提示したことである。第三に、ジョブ・クラフティングがその日常性・再帰性ゆえにそのプロセスの可視化が困難であることを踏まえて、仕事外経験を実証研究の対象としたことは、今後のジョブ・クラフティング研究において研究対象の拡張を可能にするという意味で意義を見出せる。

しかしながら、本論文に対してはいくつかの課題を指摘せざるを得ない。第一に、本研究で得られた知見は、プロボノ参加者という、いわば極端事例の検討によって見いだされたものであり、その一般化に関する検証が十分になされていない。第二に、質的研究において抽出された、関係的主体性や感情の働きについての理論的な基礎づけが必ずしも十分とはいえない。第三に、本研究で抽出された協同志向ジョブ・クラフティングや関係的主体性を、現在の主流を占める諸研究とどのように接続しうるのかについて検討するという課題も挙げられる。しかし、これらは本論文の貢献の程度に比べれば些細なものであり、その学術的価値を損なうものではない。

2. 合否判定

本審査委員会は、学位申請者である藤澤理恵に対して、2020年12月24日に本論文について公開審査を実施した。その結果、申請者が博士学位を取得するにふさわしい学識を有していることが確認できた。よって、本審査委員会は申請者藤澤理恵に対して、東京都立大学博士（経営学）の学位を授与することが適当であると判定する。

以上